

重点 プロジェクト

島々を抱く穏やかな海とともに 生き続けるためのプロジェクト

分類 まちづくり

総事業費 各年度2,000万円程度を想定 寄附目標額

計画期間 地域再生計画の認定の日…2022年4月1日~2025年3月31日

数値目標 ●観光入込客数…2018年1,867,433人→2024年2,300,000人

●第一次産業就業者数 …… 2015年1,558人→2030年1335人

〈SDGs〉関連するゴール



















海・島々・五橋の好循環の仕組み

2030年の本市のあるべき姿を「島々を抱く穏やかな海で自然の恵 みを活かしたサスティナブルシティ」と設定し、その実現に向けてSDG sを推進しています。本プロジェクトは、①穏やかな海を維持・向上させ る取組 (海を守る) を行い海の資源を守りつつ、②穏やかな海の恩恵を 活かす取組(海を活かす)を行い、観光産業、第一次産業及び内航海運 業の振興並びに脱炭素の推進を図り、これに共感する関係人口を増加 させ、並行して、③市民の生活の質(QOL)を向上させる取組(海と生 きる)を行うというものです。今後、熊本天草幹線道路の熊本-大矢野 間が完成し、熊本都市圏まで30分圏内となります。当該道路の完成す れば、本市の人口減少が抑制され、育成してきた人材がSDGsに取り

本プロジェクトで検討している主な取組は次のとおりです。

組んでいく循環を生むようなシナリオを目指しています。



上天草市のSDGs循環イメージ

①ブルーカーボンオフセットの取組

藻場によるCO2の吸収を通じた温室効果ガスの削減を図るため、関係団体と連携して藻場づくりを行い、温室効果ガス の削減が困難な企業などへのクレジット販売を促します。藻場によるCO2の吸収に加えて水産資源再生にもつなげます。

②人材の育成と循環

持続する島づくりには人材育成が不可欠です。育成した人材が市内の島々で活躍し、市民へSDGsの取組を普及・啓発 していく好影響の形成を目指しています。

重点 プロジェクト

官民連携で行う地域に裨益する再生可能エネルギーに 関する事業の実施・運営体制の構築

産業振興

<mark>総事業費 各年度1,000万円 寄附目標額 —</mark>

<mark>計画期間</mark> 地域再生計画の認定の日…2022年4月1日~2025年3月31日

●温室効果ガス削減率(2013年度比)

······ 2030年84.4% 2050年99.5%

〈SDGs〉関連するゴール





13 気候変動に 現外的な対策を

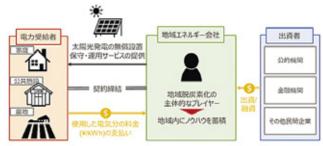






上天草版シュタットベルケの構築

地域経済活性化のためには、域外に流出している電気料金 やエネルギー料金を域内に循環させる仕組みが重要であり、 地域資源である再生可能エネルギーを地域エネルギー会社 の設立により地産地消の形で域内循環することができれば、 地域経済活性化に加えて、地域の脱炭素化にも貢献すること が可能です。特に、本市においては再生可能エネルギーによ る電力で石油を代替すること、いわゆる電化を実現すること ができれば、域外流出しているエネルギーコストを一層、削減 できる可能性があります。



本プロジェクトで想定するビジネスモデル

そこで、本プロジェクトでは、ドイツ国内の自治体が出資して水道・交通・ガス供給・電力事業等のインフラ整備・運営を行 う事業者「シュタットベルケ」を参考にした上天草版シュタットベルケの構築を、まずは人口約300人の離島「湯島」で目指す こととしています。

具体的には、市や地元企業等を中心に脱炭素のための再エネ発電事業及び電気小売事業等を行う地域エネルギー会社 を設立し、湯島で発電した再エネ資源を湯島内で利用することを通じて、地域経済の好循環化を目指します。